

# あの日を忘れず「東松島二心」とともに未来へ



2011年(平成23年)3月11日発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)は、私たちがこれまで経験したことのない未曾有の震災被害をもたらした。生活基盤である都市機能が産業基盤が壊滅的に破壊され、多くの尊い人命が失われ、自然の力の前では人間は無力であると思知らされました。

## 復旧・復興を目指す

被災状況の中でも国内外から多くの救援や支援、ボランティア活動による物心両面からの援助を受け、多くの市民が深淵の縁から光明を見いだし、復興へ向けて歩き出しました。

現在(平成26年3月1日時点)もまだ5,670人、2,297世帯の人々が応急仮設住宅(みなしも含む)に住んでいる状況です。



●一般社団法人「東松島市みらいとし機構」(愛称:HOPE)



●環境みらいとし実現に向けたシンボルの電気自動車

## 未来を見つめて

況ですが、防災集団移転や土地区画整理事業の平成28年度完了に向けて、各地域でまちづくり組織が立ち上がり、自分たちのまちづくりが進められています。

市でも、市民・有識者による復興まちづくり計画市民委員会を設置し「復興まちづくり計画」を策定。「災害に強く安全なまち」「安心して笑顔で暮らせるまち」「産業を育て働く場をつくるまち」の3つの将来像を掲げ、安全で安心なまちづくりを実現するため、復旧・復興事業を進めています。

のくらしや産業の復興を進め、中長期的には、いっしょに「新・二心・進」プロジェクトとして地域エネルギーや分散型の地域エネルギーの復興を進めていきます。

また、将来を担う子どもたちのために自然環境を学習に活かした「森の学校構想」や観光・物産事業の展開や地域医療体制の構築など多岐にわたる事業を進めるなど、東松島市の未来の創造を目指し「東松島二心」を合い言葉に、復興まちづくりを進めていきます。

## HOPE=復興事業の中間支援組織

